

令和 5年度施策評価書

政策	03 生きがいを持って暮らせるまちづくり
施策	01 生きがいづくりの推進
主管課	スマイルライフ推進課
関連課	スマイルライフ推進課、文化振興課、図書課
施策が目指す姿	市民/生きがいを持ち心豊かに暮らしている

方針

令和 5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の学習機能のさらなる充実に加え、公民館を地域の交流拠点とし、地域の課題に対応するための「（仮称）地域交流センター」化に取り組む。 ・新元気世代が、生きがいを持ち心豊かな暮らしができるよう、引き続き健康維持や趣味づくり・社会参加の促進に向けた取組を充実させる。 ・図書施設や天文科学館等の生涯学習施設においては、利用者の増加に向け、施設間で連携し、さらに充実したサービスの検討や学習機会の充実に取り組む。
--------	---

指標

成果指標名①	生きがいを感じている市民の割合					単位	%
						達成率区分	増加目標
目標値	令和02年度		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	
	計画			67.6	67.6	67.6	67.6
実績	67.5		67.9	73.5			
達成率			100.44%	108.73%			
成果指標名②	公民館・図書館・天文科学館・こども館の利用者数（合計）					単位	人
						達成率区分	増加目標
目標値	令和02年度		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	
	計画		711,000	784,000	857,000	929,000	
実績	565,212		722,883	775,242			
達成率			101.67%	98.88%			
成果指標名③						単位	
						達成率区分	
目標値			令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	
	計画						
実績							
達成率							

事業費内訳

（単位：千円）

		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	
事業費	計画	0	0	770,041	
	実績	0	0	702,216	
財源内訳	国庫支出金	計画	0	11,187	
		実績	0	11,070	
	県支出金	計画	0	0	
		実績	0	0	
	地方債	計画	0	0	
		実績	0	0	
	その他	計画	0	0	336,372
		実績	0	0	280,370
	一般財源	計画	0	0	422,482
		実績	0	0	410,776
人件費	計画	0	0	277,625	
	実績	0	0	237,507	
トータルコスト	計画	0	0	1,047,666	
	実績	0	0	939,723	

評価

施策の振り返り	<ul style="list-style-type: none">・公民館については、令和6年度からの地域交流センターへの移行を踏まえ、地域交流センター条例や施行規則、運営内規の制定といった関係法規やルールの整備のほか、講座等の参加者や自治会向けに説明会を開催するなど、地域交流センター化の周知に努めた。・概ね50歳以上の新元気世代を対象とした「焼津おとな倶楽部」の趣味活案内人講座は、前期・後期合わせて57講座から84講座に充実させるとともに、スマホ講座の受講生が講師となって「スマホ相談室」を公民館3カ所から5カ所で実施するなど、市民講師が活躍できる場を増やすといった取組みを行った。・公民館（地域交流センター）主催講座や成人学級などの開催のほか、少年の船、海の子山の子交流事業等の青少年体験活動事業もコロナ禍前と同じ形で開催できた。・ライフステージに応じた利活用を目指す大井川庁舎内に整備予定のスマイルライフ推進センターに関しては、令和8年度中の本格稼働を目指し、基本計画を策定した。・図書館では、スマホ等で簡単に楽しめる電子書籍の普及が進んでいることもあり、前年度比で利用者数が減少したものの、より多くの人に読書を普及するための各種講座の開催や、子供の成長段階に応じた絵本の読み聞かせ会などの事業を実施し、読書に親しむきっかけづくりに努めた。・焼津市子ども読書活動推進計画の第二次計画が終了するため、取組の成果を検証し、結果を踏まえ新たに第三次推進計画を策定した。・天文科学館では、市民の生きがいづくりを目的に広くボランティアを募集し、ボランティア（登録62名）の協力の下、天文教室や科学工作などの事業を行うとともに、プラネタリウムの更新工事を実施した。
施策の課題	<ul style="list-style-type: none">・生涯学習の様々な講座に参加する人が増加しつつあるが、コロナ禍前の水準には戻っていない。・新元気世代プロジェクトの各種講座等の男性及び比較的若い世代の参加者が少ないため、魅力的な内容の講座や夜間や休日開催など、プログラムの見直しや充実を図っていく必要がある。・地域交流センター化に伴い、若い世代を含む利用者層の拡大や、地域課題及び多様化するニーズに積極的に対応するための体制づくりについて関係部局との検討を重ねる必要がある。・老朽化した港地域交流センターの今後のあり方について、検討が必要である。・令和8年度に運用を開始する大井川庁舎内のスマイルライフ推進センターは、施設の維持管理や運用内容が決まっていない。・図書館においては、気軽に利用できる電子書籍化などを活用したサービスの充実を図り、利用者の確保、増加に務めていく必要がある。・プラネタリウムの更新を踏まえ、天文科学に親しむ機会を更に充実させるため、引続き、学校、ボランティア及び専門機関との連携・協力を図る必要がある。
市民意見	<ul style="list-style-type: none">・地域交流センター化に伴い、これまで以上に小・中学生、高校生、大学生及び各学校と連携して若い人が利用したり、イベント等への参加ができるようになると良い。・地域交流センターまつりなど、若い世代の方が参加すると、地域住民の方との繋がりもでき、地域の方にも喜んでもらえる。・図書館については、大勢の方に利用してもらえるように市民や学校等と連携して、図書の配置の工夫やイベントの実施などに取組んでほしい。・ディスカバリーパークのプラネタリウムにおいて、障害者向けのプログラム制作といった取組みを行っているが、他の公共施設においても多様なニーズに沿った事業や取組みをできる限り実施してほしい。